

男女共同参画に関するミニコラムVol.4

～ 生涯現役！仕事に、プライベートに、人生を楽しもう！～



執筆 松尾 紀子さん

(第9期羽村市男女共同参画推進会議副会長、(株)みらい代表取締役)

平成29年の我が国のGGI※は、144か国中114位であり、この3年間で下降しています。また、平成28年度の日本人女性の短大・大学への進学率は57.1%ですが、就業者は43.5%であり、その内の管理的職業従事者は、13.0%と低く、女性の総活躍から程遠い現実にあります。

人は成長する過程において将来の夢や希望を持ち、さまざまな環境の中から職業を選択しています。しかし、5割の女性が結婚を機に家庭に入り主婦・母親としての役割を選択しています。未だ「男は外で女は内」という日本独特の考えから脱却できていません。内閣府調査（平成28年度）でも「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に男性44.7%、女性37%が賛成という結果となっています。

女性が自身の努力で得た職業を結婚・子育てをしながらも続けていきたいと考え、実行する行動力を持ち、そして男性も共に支え、人生を謳歌できるよう、まずは、家庭・子育て・仕事が両立できる意識を持つことが大事だと考えます。

現在は、女性の職業選択にほぼ制限はありませんし、働き続ける環境が整ってきていると思いますが、心の満足はどうでしょうか。これからは地域活動にも女性の活躍がなくてはならないと考えます。

地域活動にさ参加する、役割を担う、見守る、楽しむ、会話する、尊重するなど、プライベートの時間を楽しみながら、自身の活動を社会に還元することが男女共同参画社会の実現に向けた変化を少しずつ育んでいくと信じています。

私が子どものころ「男は良いな！どんな職業にも就けるし、ずーっと働けて！」と言った際に、戦後満州からの引き上げと体を壊して戦争から帰国後10年余りで夫と死別、生活にも子育てにも苦勞してきた母は「女はいかなる時のことも考えて一生働けるよう手に職を付けなさい」と言いました。

ずっと働き続け、子育てを終わらせ、地域社会で子育て支援をしながら人生現役のまま、できるところまで頑張ることに、現在、実践奮闘中の私です。

※GGI…ジェンダー・ギャップ指数。各国内の男女間の格差を数値化しランク付けしたもの。

羽村市企画政策課企画政策担当
電話：042-555-1111（内線367）
ファクス：042-554-2921
メール：s101000@city.hamura.tokyo.jp